

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》黒崎芳子

【概 要】

言語聴覚療法の対象である失語症に対する、基本的検査・評価技能、治療技能を実技的に学ぶ。

【学習目標】

リハビリテーション専門職として必要な実践的能力を備えるために、失語症検査・評価技能、治療技能を実技的に学ぶ。

1. 主要な失語症検査・評価の理論について理解し、説明できる。
2. 失語症検査の具体的方法を理解し、実施できる
3. 失語症検査の結果のまとめ方を理解し、説明できる。
4. 失語症検査の結果から、問題点、予後、ゴール設定、訓練内容が説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	講義・オリエンテーション	標準失語症検査（SLTA）の沿革、目的、構成、採点、解説	黒崎芳子
2	失語症検査	SLTA下位検査の実施、採点 症状(聴く)の評価	黒崎芳子
3	失語症検査	SLTA下位検査の実施、採点 症状(聴く)の評価	黒崎芳子
4	失語症検査	SLTA下位検査の実施、採点 症状(話す)の評価	黒崎芳子
5	失語症検査	SLTA下位検査の実施、採点 症状(話す)の評価	黒崎芳子
6	失語症検査	SLTA下位検査の実施、採点 症状(読む)の評価	黒崎芳子
7	失語症検査	SLTA下位検査の実施、採点 症状(書く)の評価	黒崎芳子
8	失語症検査	SLTA下位検査の実施、採点 症状(書く)の評価	黒崎芳子
9)	結果の解釈・言語所見	SLTAのプロフィール作成および分析 言語所見の作成 (失語症のタイプ・重症度/発話症状の把握/モダリティ別障害レベル/記載方法)	黒崎芳子
10			
11)	評価報告書作成1	SLTAの結果に基づいた言語評価報告書作成 (言語所見/ICFによる問題点/ゴール設定/訓練内容)	黒崎芳子
12			
13)	評価報告書作成2	SLTAの結果に基づいた言語評価報告書作成 (言語所見/ICFによる問題点/ゴール設定/訓練内容)	黒崎芳子
15			

【評価方法】

レポート50%、定期試験50%

フィードバックとして、授業内で提示した演習課題のポイントを解説する。

【備 考】

教科書：日本高次脳機能障害学会 編 「標準失語症検査マニュアル」 新興医学出版 2013年
藤田郁代 他 編 「標準言語聴覚障害学 失語症学 第2版」 医学書院 2015年

【学習の準備】

予習では、教科書を読み検査内容を理解しておくこと（60分）、採点方法などの基準を理解しておくこと（60分）、配布資料を自分で評価できるよう調べること（60分）。

復習では、教科書と授業で配布された資料を整理し、検査方法の理解を確実にすること（60分）、演習課題が確実に行えるよう実技練習を行うこと（60分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

黒崎芳子（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、失語症検査の実技の習得を指導するとともに、失語症の評価・診断、リハビリテーションについて実践的演習を行う。